

平成26年度入学試験問題（前期日程）

小論文

教育学部 生涯教育課程 沖縄島嶼教育コース

注意事項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないように注意すること。
4. 解答時間は、120分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

- 1 次の資料文1を読み、「勇ましい愛国は要らない」と文中の与那国島住民が言う理由を説明しなさい。(400字程度)

〔資料文1〕朝日新聞 2012年11月10日付朝刊

非公開

非公開

(『朝日新聞』2012年11月10日付朝刊, 「あした、どこへ—民意のありか」1, 抜粋・一部改変)

2 次の資料文2を読み、あとの問1、問2に答えなさい。

〔資料文2〕 牧原憲夫『文明国をめざして』全集日本の歴史第13巻 2008年

非公開

非公開

非公開

非公開

(牧原憲夫『文明国をめざして』, 全集日本の歴史, 第 13 卷, 小学館, 2008 年刊, 229～241 ページ, 抜粋・一部改変)

問 1 資料 2 の下線部 (1) において筆者は、「近代日本は日清戦争ではじめて植民地をもったのではない」と主張している。この主張の根拠を述べなさい。(500 字程度)

問 2 資料 2 の下線部 (2) において、「文明開化とは何よりもまず日本自体の『自己植民地化』であったのだ。にもかかわらず、いや、だからこそ、日本 (本土) の民衆はみずからを文明の側に置き、沖縄人、アイヌ、中国人、朝鮮人などを見下していくことになる」と述べられている。自己植民地化が琉球・沖縄においてどのように現れたのかをふまえたうえで、国境、領土、近隣地域との関係をどうするべきか、あなたの意見を述べなさい。(600 字程度)

平成26年度入学試験問題（前期日程）

小論文

教育学部 生涯教育課程 沖縄島嶼教育コース

出題の意図

沖縄島嶼教育コースは、教育学部生涯教育課程のアドミッション・ポリシーに記されているように、沖縄を中心とした島嶼地域について広い見識と専門知識を持ち、シマおこし・まちづくりを担う人材を育てるために、「生涯教育や社会貢献に興味・関心を持つ人」「人々と共に地域貢献に関わりたい人」を求めている。

そこで本コースの入学試験問題は、第一に、基礎的な一般的力量として、資料の読解力と自分の意見を論述する力を問うことをねらいとしている。

第二に、沖縄・島嶼地域をとりまく文化的・政治的・経済的状況やそこに生起する諸問題の基本的なとらえ方と、それらの問題に対する関心度をはかることを意図している。これは、それらの問題に関する知識の多寡ではなく、資料からその問題をめぐって追究すべき論点は何であるかを抽出し、その論点についての自分自身の判断を整理して論述できるかどうかを問うものである。